# 広島大学附属中学校

| 入試科目 | | 算数 | 国語 | 理科 | 社会 | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 試験時間 | | 50分 | 50分 | 合わせて50分 | | |
| 配　　点 | | 100点 | 100点 | 60点 | 60点 | 320点 |
| 合格の目安 | 得点 | 78点 | 50点 | 45点 | 48点 | 221点※ |
| | (%) | 78.0% | 50.0% | 75.0% | 80.0% | 69.1% |
| 昨年度との比較 | | 易化 | やや易化 | やや易化 | 横ばい | 易化 |

調査書(150点)・志願理由書を加えて総合的に判定

※当社予想

## 算　数

1 問１　計算２題　　問２　（１）正六角形の対称軸の本数　（２）点対称の作図　　問３　水量と容器の高さ　　問４　集合と比
2 資料の整理（表とグラフ）　　小問数：３
3 平面図形（四分円の重なり）　　小問数：３
4 規則性（数表）　　小問数：４
5 ダイヤグラム（往復と出会い）　　小問数：４

広大附属中の算数は年によって形式が異なることがありますが、近年は大問５題で構成されています。難易度も年度によって上下しています。受験者平均点を見ると、平成 27 年が平均点 78 点、28 年が 60 点、29 年が 71 点、30 年が 47.3 点と一定していません。今年度の問題は、昨年度に比べるとかなり易しくなっており、平均点も高くなったと推察されます。本年の小問数は 20 問で、昨年と同じです。

1 は「計算と一行問題」です。例年問１では計算が 1 問出題されます。本年は 2011 年度以来、久々に計算が２題出題されました。比較的易しい問題でしたので、確実に正答する必要があります。問２は対称な図形に関する問題です。広大附属中ではよく出題されるので、受験生も落ち着いて取り組めたでしょう。問３は比を使うとある程度楽な計算で答えが出せますが、ほとんどの受験生は体積を求めて解いたでしょう。問４は簡単な問題とはいえませんが、広大附属中に合格する生徒なら苦戦するわけにはいきません。全体の人数を７と９の最小公倍数に揃えた

らスムーズに解けたでしょう。1は得点源にしたい大問です。問２（２）・問３・問４を戸惑うことなく処理できる力が合格するためには必要でしょう。

2は表とグラフの問題です。2018 年７月、31 日分の平均気温・最高気温・最低気温が表で示されています。「考えて解く力」というよりは「素早く正確に見つける」、処理能力が問われています。問１は猛暑日の日数を探すだけの問題です。問２はア～オの中で正しいものをすべて選ぶ問題です。難しい選択肢はないですが、５つの選択肢１つ１つ正しいかどうかを吟味する必要があります。問３は平均気温のちらばりの様子をグラフにまとめ、正しいグラフを選ぶ問題です。自分で正しいグラフをつくってから、同じグラフを選択肢から探すというアプローチもありますが、時間を使ってしまうので得策とはいえません。選択肢のグラフを見比べ、差が生じているところだけをチェックしていけば時間はかかりません。具体的には、グラフ横軸の温度に注目するだけで２択までは絞れます。純粋に処理能力を問われている大問でした。処理能力を高めるためには、答えが出たらいいや、という勉強ではなく、少しでも素早く的確な処理をするためには何をすればいいかを日頃から考えて勉強する必要があります。

3は図形に関する問題。いかにも広大附属中らしい図形問題なので、見覚えはありながらも、嫌な気持ちになった受験生は多くいたことでしょう。問１は単なるボーナス問題。問２は、四分円を 10 度ずつ重ねていく問題です。というと難しく感じますが、実際の考え方は４年生でならう植木算です。典型的な「テープとのりしろ」の考え方ですが、図形になっていたので面食らってしまった受験生が多くいたでしょう。問３は、円を横一列に重ねていく問題です。これも前問と同様に、円を１つ増やせば、何 cm 増えるかを考えていく「テープとのりしろ」の問題です。問２で何 cm 増えるかと表現しましたが、円周の問題なので、円周何個分という考え方で計算すれば、計算は楽になります。最後に、１枚の円に四分円が４つ必要な事に注意しなければいけません。考え方や計算方法だけでなく、最後まで気が抜けない大問でした。

4は規則性に関する問題です。問１は周期算です。一手間必要な周期算ですが、この問題で手こずるようでは、合格はおぼつきません。受験生にとっての本番は問２です。（１）は階差数列を考えるよりも書き出して足し算するのが楽かと思います。この（１）が（２）へのウォーミングアップに相当します。（２）は（１）でもとめた１、３、７、13、21 という数字を、１番目、３番目、７番目として捉えなおします。最初の数を①として等差数列の考え方を用いて、数字を置き直して考えることになります。等差が５なので３番目＝①＋５×（３－１）というように。そこまでできれば単純なマルイチ算です。解法を知っているかどうかというよりは、その場での発想を手がかりに解く問題です。

5はダイヤグラムの問題です。広大附属中のダイヤグラムとしては、至って普通の難易度です。過去問演習を行ってきた受験生にとっては問２まではすんなり正答できると思います。問題は問３で、求められているのは、イメージ力、読解力です。「追いつかれる」＝「一周差がつく」というのは、広大附属中を志望する受験生ならば当然理解できているはずです。後はどういう状況で差がついたのかを、イメージできるかどうかがポイントになります。

試験問題のレベルは毎年一定ではありません。簡単な問題は当然ながら、差がつく問題もある程度は正解しなければ合格は難しい学校です。広大附属中を受験するのであれば、計算力（十分なスピードと正確さ）や解法を含む基本的な算数の知識が必要であることは当然として、時間のかかる問題であっても簡単にあきらめない粘り強さを身につけることが必要です。そのためにも、普段から１つ上のレベルの問題に慣れていきましょう。

## 国　語

| | |
|---|---|
| 一　松井智子『子どものうそ、大人の皮肉』 | （説明文　約 2700 字　小問数 10 問　うち記述５問） |
| 二　落合由佳『流星と稲妻』 | （物語文　約 3800 字　小問数 12 問　うち記述５問） |

広大附属中の国語問題は、現在広島の中学入試における最高峰と言ってよいだろう。試験時間は 50 分、小問数は 20 問前後しかないが、高いハードルが３つある。

１つめは文章の長さと難解さである。物語文は長く 3500 字前後、説明文は、専門的な素材から難解な文章を選ぶ。そこらへんのティーンズでも読める新書レベルとは訳がちがう。２つめは問題の手強さ。知識を問うのではなく、よく練られた選択問題と記述問題で文章内容の理解の深さを問う。特に記述問題は国語を得意とする受験生でも苦労するレベルで作られている。３つめは日程。2013 年度入試以降広大附属中は広島市のトップバッター。市外の学校で前受けをして予行演習はするものの、千名を超える受験生を集める最難関校から受験が始まるというのは十二歳の子どもにはつらい。しかも、一時間目の試験科目が国語とくれば、緊張はＭＡＸに達する。

初めての難関受験に挑む緊張感と手強い二題の読解問題、メインディッシュが３皿も出てくるフルコースは味わう以前に胸焼け、食もたれをおこしそうになる。さて今年の問題は。

大問一は岩波書店〈そうだったんだ！日本語〉シリーズの『子どものうそ、大人の皮肉』から出題。子どもが大人の皮肉を理解できるようになる過程について著者自身の子どものエピソードや実験結果を通してわかりやすく解説している。昨年の子どもの言語獲得の過程について論じた『ちいさい言語学者の冒険』とよく似た文章である。引用箇所は第二章の「うそや皮肉は難しい」。皮肉という形でわざと現実とかけ離れた状況を子どもに言うことで話し手が期待していたことを相手に気づかせ、自発的に現状を改善させようとする。小学校に上がった段階で皮肉は理解できるものの、その話し方で受け取り方が異なってくるという内容の文章である。語り口はやわらかくわかりやすいし、専門用語もないのでさらりと読めるだろう。では、設問に目を向けてみよう。

問一の漢字の書き取りは基本問題。問二はうそと皮肉の共通点を説明する記述問題で、直前からの文脈ですぐわかるだろう。問三の「前向きの皮肉」の説明も前後の文脈で十分把握できるので難しくない。問四の「□性」の空所補充は、皮肉が誤解される要因となる性質を答える問題。段落をよく読めば「間接性」とわかるはずだが、内容を考えずに答さがしをすると間違うかも知れない。問五は附属らしい問題である。ほめるセリフが言葉通りに解釈される文脈と皮肉になり得る文脈の例としてあげられている「片付け」についての二種類のストーリーを参考に、「朝起き」の説明文の空所に文を入れる問題で難しくはない。問六の記述はやや手強い。事実通りの場合と皮肉となる場合の二種類の場面で「セリフがどちらの文脈でもほめことばとなっていたことが重要である」理由を説明する記述問題。「ほめるべき文脈で親がほめるというストーリーは子どもにも理解しやすい」とあるので、悪いことをしたという文脈で親がほめるというストーリーが理解できるかどうかを調べようとしていることに気づけば解答できるだろうが、読解力・表現力のない受験生はどのように書けばいいか分からなかっただろう。最後の問七は、悪いことをしてほめことばをかけるときの読み方で子どもたちがどのように感じたかについての調査結果を表にまとめ、（Ⅰ）「叱る声」では「怒っていた」、「棒読み」に対しては「うれしかった」と感じたのは子どもたちが何を手がかりにしたからかを選択肢から選ぶ問題は簡単。（Ⅱ）悪いことをした文脈でほめことばを「ほめる声」で読むと、子どもたちの４割が「怒っていた」、４割が「困っていた」、１割が「うれしかった」と感じたことについて、筆者がどう考えているかを説明する記述問題はやや難か。該当箇所を読めば、「悪いことをしたという文脈でほめる声でほめられたというギャップが際立ち、言葉通りに受け取

ることためらった」という内容があるのでそれをまとめればよいのだが文章をちゃんと読まない子はどう答えてよいかわからなかったのではないか。

例年と比べ、読みやすく、解きやすい問題。ここまでは解答用紙に空欄を作らず、大問二に進みたい。

大問二は落合由佳『流星と稲妻』から出題。小学六年生の阿久津善太と蓮見宝が剣道を通じて切磋琢磨しながら友情を育んでいく。出題箇所は小説のクライマックスとなる楠宮神社の奉納試合で二人が真剣勝負する場面で、僅差の相面で善太が宝に打ち勝つ。児童文学らしく読みやすい文体で剣道をしない人にもわかりやすい。

問一の副詞の挿入は易しいが、問二以下これでもかというほど難問が続く。問二は、善太の独白に続く、「神社の境内を囲む木々がいっせいにざわめいた」という情景が表すものを説明する記述問題。心の中で宝に勝ってやるという強い思いをあらわすものと考えられるが、15 字以内という少ない字数の中でまとめるのは難しい。問三は、宝のかすかな変化をとらえ、善太が電光石火の速さで面を打ちこむ場面で「善太の身体に電流が走った」という比ゆ表現の内容を説明する記述問題。場面がわかりやすく、なんとか答にたどり着けるだろう。しかし、続く問四はいかにも附属らしい難問。二人が相手の面をねらって竹刀を打ち下ろすときのかけ声、「メンっ！」と「めぇん！」について善太の言葉はどちらで、そう判断できる理由を表記の違いを取り上げて説明する。きっと多くの受験生が「はぁ？何コレ？」と思っただろう。とりあえず、どっちかに決めて、「っ（促音）」「ぇ（半音）」に注目して説明して欲しいが、時間をかけすぎてはいけない。見慣れない問題は答の方向性がつかめなければ思い切って後回しでいい。

問五はまたもや情景描写の説明問題。負けた宝が見上げた先にある「雲一つなく、やさしい水色をした空は、鏡面のように静かだ」という情景から宝の気持ちを説明する記述問題だが、力を出し切った清々しさのようなまとめ方になるのだろう。わずかになった残り時間で落ち着いて解答できた受験生は多くないだろう。問六の内容把握の選択問題、問七の心情把握の選択問題は難しくないので、ここでしっかり得点すること。問八の「刀を二本用意して」の刀とは宝にとって何のことかという比ゆの問題。さらっと「面打ち」「抜き胴」と答えればいいが、「面抜き胴」じゃないかと考え出すと悩む。最後の問九、勝負に負けた宝が「宝くんたちの剣道は、まだまだ、これからですね」と絹先生に言われて、「これから。それはまだ、考えられない。」と思う気持ちと、善太と話した後に「まだ、一勝一敗」と言ったときの気持ちの変化を説明する記述問題。時間さえあればわかりやすい問題だが、その時間は残っていまい。

今年もていねいに内容を読み取る読解力とポイントを過不足なく記述する表現力が求められた「附属臭」がぷんぷんと漂う問題。説明文はなんとかできても、物語文が難しく、全体としてはほぼ前年並みといったところか。

広大附属中という山は想像以上に高い。第一志望とする受験生は、読むのがイヤになるような難解な文章に触れ、めんどくさいけれども本文内容に照らしてていねいに解答し、条件をコツコツとひとつひとつ確認しながら過不足なくまとめる記述力を磨く、という地道な訓練は欠かせない。頂上はそれを乗り越えた先にある。(kuro)

## 理　科

| | |
|---|---|
| 1 | 物理分野から、ふり子の運動　に関する問題（小問４） |
| 2 | 化学分野から、ろうそくの燃焼と気体　に関する問題（小問12） |
| 3 | 生物分野から、メダカの飼育　に関する問題（小問６） |
| 4 | 地学分野から、太陽と星の動き　に関する問題（小問７） |

今年も、物理・化学・生物・地学の４分野から大問１題ずつ、教科書内容を逸脱しない範囲で出題されています。問題数は例年並で（30 問程度）、受験理科のレベルからいえば基本、標準問題がほとんどとなっています。同校の特徴の一つとして、字数制限のある記述がありますが、今年に限りその出題はありませんでした。しかし、記述そのものは５問出題されました。ただ、記述といっても知識問題に近いものがほとんどなので、受験生が戸惑うことはなかったと思います。また、図中に描き込む問題を４問含むなど多様な解答形式が目立ちました。いずれにしても、広島で最激戦の中学入試なので、どのような出題があっても対応できる準備をして臨まないと合格点には達しません。

1　ふり子に関する定番の問題です。問１　ふり子の長さが単にひもの長さではなく、おもりの重心までの長さであることは、広大附属を目指す受験生なら知らない人はいないはずです。加えて、図１でそのことが示されているのでよもや間違えることはないと思います。後は、そこに着眼して、題意にそった記述が出来たかどうかです。問３　（１）は簡単なグラフの読み取りで、読み取った数値は過去の演習で扱った見覚えのある数値なので安心できたはずです。（２）はグラフの変化（長さは周期の２乗に比例する）を４つの選択肢から探しあてる問題で、小学生には簡単ではなかったと思います。ただ、このような問題をしっかり取り切ることが同校への合格につながるはずです。

2　ろうそくが燃えるときの気体の変化についての問題です。問１　近年、気体検知管の使い方の問題はよく出題されています。ここでは、ろうそくが燃える前と後での酸素と二酸化炭素の空気中に占めるおおよその割合は知っておかないといけません。それをもとに９個の気体検知管から適切なものを選ぶ問題ですが、細かい目盛りに注意しないといけないのでミスには注意しましょう。問２～問６は何度も練習してきた問題のはずなので全問正解が必要でしょう。

3　メダカの飼育に関する問題です。問１のすべて選びなさいの選択問題は悩んだかもしれませんが、他の問題については定番の内容ばかりなので、ここも全問正解以外は考えられません。

4　棒のつくる影（日影曲線）の動きについての問題です。図１でまさか上が北と決めつけてしまった受験生はいなかったと思いますが…。実際は 10 時の影の位置と８等分された目盛りを合わせると東西南北が決まります。ここでは、この作業がすべてになり、正しく決まれば、問１～３は正解できます。問４～問６の星座の中の一等星の位置や星座の集まりを図中で見つける問題ですが、図中に一等星が堂々と示してあるので間違えることはないと思います。

問題数、問題レベルからみると、いかにも簡単な入試の様にみえますが、何問かある受験生を悩ますような問題も同校の入試では捨て問にはなりません。むしろ合否を分ける問題になるはずです。これらの問題に対してもしっかり対応できる学力をつけておきましょう。最も注意すべきことは出来る問題を絶対にミスしないことです。

# 社　会

1 《地理》日本の自然に関する問題（５問）
2 《地理》日本の農業・工業・観光に関する問題（７問）
3 《歴史》歴史上の書物や作品に関する問題（７問）
4 《歴史》近代に活躍した人物に関する問題（７問）
5 《歴史》現代の出来事に関する問題（４問）
6 《公民》国会・内閣・裁判所に関する問題（６問）
7 《公民》国際連合に関する問題（３問）

2019 年度も広大附属中学入試が市内最初の中学入試となりました。問題数は昨年よりも２問減って 39 問となりました。理社合わせて 50 分という試験時間では、時間的には余裕はないでしょう。文章記述問題は今年も昨年同様４問出題されています。また記号選択問題は 21 問と昨年よりも６問増え，そのうちの４問は正解が１つだけではなく複数存在するという難度が高いものでした。これも 2020 年の大学入試改革(高大接続改革)を視野に入れたものと考えられます。記述問題は学校の教科書に記載してある内容で，語句の意味をきちんと理解していれば書ける出題でした。よって，語句(用語)や文章が書けないと厳しい入試であると言えます。問題レベルは昨年同様解きやすい問題で、超難問と呼べるものはほとんどありませんでした。簡単な問題でも試験時間が短いことで焦ってミスをした受験生もいたはずです。とにかく１問１問を正確に解くことが大事です。

1 は日本の自然についての地理問題。問１では１月と７月の東北地方の日照時間を判別する問題。問２は日本の一部を示した図の中にかかれた河川を見て誤っているものをすべて答えさせる問題。問３は地形の断面図から場所を特定させる問題で，いずれも日本の国土に関する知識を正確に理解していれば容易に解ける問題でした。

2 は農業・工業・観光についての地理問題。問１は野菜の促成栽培と高冷地農業が盛んな場所の知識が要求された問題。問２と３は工業に関する正誤問題。問４の北海道・東京都・京都府・広島県を訪れた観光客の観光目的の割合からそれぞれの都道府県を特定する問題は各地の特色を正確に理解していないとすべて正解にはたどり着けなかったかもしれません。

3 は歴史上の書物や作品から関連することをたずねる問題。具体的には「日本書紀」「解体新書」「源氏物語」「古事記伝」「万葉集」「学問のすゝめ」が提示され，それぞれに関連する問題が出されました。問１のヤマトタケルは学校の図書室などにある児童用の「日本書紀」や「古事記」を読んでいないと解きづらかったかもしれません。また問６の福沢諭吉の考え方ではないものを選択する問題と問７の各時代の特色と，それぞれの書物・作品と同じ時代を組み合わせる問題は，歴史の内容をしっかりと理解していないと解きづらい問題でした。どれも学校の教科書に掲載されています。ここで大事なのは、資料が何時代か正確に判別しなければならないことです。判別ができていれば何の心配も要らない問題だと思います。広大附属中学校では、よく写真や文書などの歴史資料を使った出題があるので教科書や資料集などは一通り目を通しておくことをお勧めします。

4 は津田梅子と野口英世の生涯に関する年表をテーマにした歴史問

題。問１では日米修好通商条約の不平等な内容により，当時の日本の社会や産業にどのような影響が出たかを書かせる記述問題で，昨年の文章記述は日米修好通商条約が不平等条約である理由を答える問題だったので２年連続で同じような問題が出題されました。

5は戦後の現代社会からの出題。問１の北方領土に含まれないウルップ島を選ばせる問題は悩んだ受験生もいたかもしれません。ただ，昨年，日本とロシアの間で平和条約を結ぼうということがニュース等で報じられ，北方領土問題も合わせて報道されていたので，そこから正解に辿り着いた人もいたでしょう。問４の地球温暖化防止京都会議以降の出来事をすべて選ばせる問題は，重要年号をしっかりと暗記していた生徒は解けたと思われますが，そうでない人にはハードルが高かったと思います。やはり歴史の勉強をする上で年号暗記は得点につながりやすいと考えます。なお京都議定書は昨年も出題されています。

6は太郎さんと山田先生の会話文から国会・内閣・裁判所に関する出題。特に問３の三権分立の目的を説明する記述問題と問５の参政権以外に基本的人権を守るために憲法で保証されている権利を答えると共に，その権利がどのように民主主義のしくみをうまく働かせているかを説明させる問題は文章記述の練習をしていなければ難しいでしょう。

7は国際連合に関連する問題。問１の正誤問題は 193 もの国連加盟国の中で発展途上国の数が多いということを理解していないと解けなかったと思います。また問３の国連機関を選ぶ問題の選択肢の中に NGO(非政府組織)のペシャワール会(パキスタン・イスラエルで医療活動をしている団体)が出たので戸惑った受験生もいたかもしれません。

以上のように 2019 年度の広大附属中学の社会科入試問題は昨年同様解きやすい問題と思考力を要求される問題が混在していました。合格ボーダーを突破するには、基本的な問題はミスなく解くことが求められました。また問題数からもかなり速く解くスピードが要求されます。時間内にできるだけ多く正確に解けたかどうかが決め手となります。前述したように過去に出題された語句などが繰り返し出ていることがありますので，過去の入試問題は必ず解いておきましょう。また、解く際は時間を必ず 25 分以内に設定しておこないましょう。